



●会長挨拶

研究会誕生の精神を忘れずに…

手稲郷土史研究会 会長 永井道允

平成 17 年に「手稲に郷土資料館を！」という熱い願いのもとに設立された郷土史研究会であります。関係機関との連携もままならず、その実現は簡単ではありません。かつては会員が 60 名を超えたこともあり、幾多の出版物の刊行やパネル展などの事業を展開してきました。歴史遺産「東宮駐輦記碑」の保存にも努めました。それらのことが評価されて、平成 30 度には「北海道文化財保護功労者」として表彰の栄誉に浴しました。

会員の高齢化による退会や新たな加入が見られないことなどから、本年度は 40 余名の会員数でのスタートとなりました。役員も少なく、ぎりぎりでの運営です。往時の情熱やエネルギーには及ばないけれども、地道に郷土の歴史を研究し続けていかななくてはなりません。区役所 1 階に設けられた郷土史にまつわる展示コーナーの充実により手稲の歴史を広く手稲区民に伝えること、加えて手稲郷土史研究会がどんな願いを持ちどんな活動をしているかを知ってもらうことが、手稲郷土資料館設置へつながる近道だと感じます。

「手稲郷土資料館の設置」も「手稲歴史資料展示コーナーへの協力」も別々の活動ではなく、一体となった当会の重要な事業として捉え、手稲郷土史研究会の誕生の精神に立ち返って、会員みんなで目的を実現させようとの気概を持ち合いたいと思います。

—— 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、4 月に予定されていた手稲郷土史研究会の『令和 2 年度定期総会』は開催中止とし、書面による審議を会員各位へお願いしました。結果は 6 月の定例会でご報告します。



手稲歴史資料展示コーナー

令和 2 年度 定例会 研究発表予定表

開催日時	演題(仮)	発表者	
6月10日(水)18:15	手稲の政治経済界を動かした「みどり亭」	一ノ宮博昭	手稲郷土史研究会 会員
7月8日(水)18:15	画家 富樫正雄と手稲 (+茶話会)	乙黒通子	手稲郷土史研究会 会員
8月12日(水)18:15	手稲の下水道の歴史	高松康廣氏	元 札幌市建設局
9月9日(水)18:15	私の住む土地の歴史を掘る	濱埜静子	手稲郷土史研究会 会員
10月14日(水)18:15	手稲鉾山を拓いた人々 —その光と影—	鈴木清士	手稲郷土史研究会 会員
11月11日(水)13:30	明治期における「新川」事情	榎本洋介氏	札幌市公文書館
12月9日(水)13:30	ウシのはなし	石原重隆	手稲郷土史研究会 会員
1月13日(水)13:30	植物観察のたのしみ	原田和彦氏	やまなみ手稲
2月10日(水)13:30	前田農場 小作農のたたかい	竹内伸仁	手稲郷土史研究会 会員
3月10日(水)13:30	シベリア抑留 —体験者に聴く—	建部奈津子氏	シベリア抑留体験を語る会 札幌

*5月の定例会はコロナ禍を考慮し中止となりました。6月以降の会場はいずれも手稲区民センター 3 階 視聴覚室です。

【つれづれ随想】

住まいをテイネに決めたわけ

わたしが生まれ育った帯広は、山が遠く、海もまた遠い地で、近間の景色にアクセントがないように思え、海を見られるのがとても嬉しかったものでした。

社会に出てあちこちを歩き、昭和50年に所帯を持った場所が、今の前田6条15丁目あたりの社宅（バス停はたしか「ホクレン団地前」）で、朝に夕に手稲山を仰ぎ、少し行けば日本海に足を浸すこともでき、おおいに満足する地でした。



日本海と暑寒別の山々を望む

大きなものの買い出しは街へ出かけましたが、女房の日用品の買い出しは、樽川通の「あけぼのショッピングセンター」（今は解体されて更地に）か、奥の大杉商店（今はセイコーマート）。ここで生まれた長男のかかりつけは、やはり樽川通にあった秋野医院でした。雪が解けた日曜の朝ともなれば、バスから降りた一行が我が家の前を通過してワラビ取りに入る光景がよく見られましたが、吸ったタバコの火の不始末でしょうか、ときおり野火が…。消防車が来て、帰ったと思ったら再出火で、サイレンを鳴らしてまたやって来ることもありました。通勤は、バスで手稲駅まで出て気動車が電車でしたが、元気のよい仲間、駅まで徒歩の通勤。寝覚めの悪い小生にはできない業でした。

その後10年近くの道外生活を経てまた札幌に戻ることにになり、山や海の近くで住みたいとの願いから、金山パーキングの上にある家（バイパス団地）を借りて住まいすることになりました。その年の大晦日も迫った日の夜半、旧鉢山溜水の突出があり、慌てて外に飛び出すと3軒先には薄く積もった雪の上に真っ黒な水の跡が見えました。懐かしいのは、出勤時に玄関を開けると、周りは一面の霧（ガス）。高速道の陸橋を降りて振り返ると、我が家一帯は雲の中でした（標高 およそ70m!）。また、仕事帰りにイッパイやったあとの駅からの帰り道の遠いこと、長いこと。陸橋あたりでひと息つくこともしばしばで、雪道では滑って上がれないこともありました。夏には遠く街の方角から花火の音が聞こえ（たぶん豊平川でしょう）、雲のなかのぼんやりとした明かりが夜空に広がっていました。

三角屋根の家は 借家用に建てたものとかでとても寒く、やはり海を見ることがができるバイパスの下の現在の家に移りました。雲が低く垂れこめていない日には、日本海の向こうに暑寒別の山々を眺められるのが 最高の喜びです。

そんなこんなで、途中の10年弱を除き手稲に住んで おおよそ40年。手稲のことを知らなさ過ぎと、昨年4月に手稲郷土史研究会に入会させていただき、あんなこと、こんなことを少しずつ学ばせてもらっている今日この頃です。さらに皆様方から手稲のことを学ばせていただき、ますます「テイネ大好き人間」になりたいと思っています。

石原重隆（手稲郷土史研究会 会員）



★市民活動団体として登録 手稲郷土史研究会では 活動の促進を図ろうと「札幌市市民活動サポートセンター」へ市民活動団体として登録し、4月6日付で承認されました。これにより、『札幌エルプラザ公共4施設』（北区北8条西3丁目）の諸設備の利用をはじめ、「札幌市市民活動サポートセンター」内への会報やチラシの配架などで 当会の情報発信もおこなえるようになりました。また、郵便物の宛て先として、「〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 札幌市市民活動サポートセンター／レターケース No. 277 手稲郷土史研究会」を新たに設定。メールアドレス「kyoudoshi_teine2005@yahoo.co.jp」も設け、情報交換に役立てていきます。

★会報のバックナンバーを配置 会報『郷土史ていね』の閲覧用ファイルを 手稲区役所1階「手稲歴史資料展示コーナー」に置きました（第126号以降分）。なお、会員配付の紙面は今号より、経費削減のためモノクロ印刷となります。ご了解ください。手稲区 HP 上では カラーでご覧いただけます。